

第6回木津川市生涯学習推進計画策定委員会報告書

開催日時 平成26年1月15日（水） 午後3時00分～4時50分
会 場 木津川市東部交流会館 1階多目的ホール
出席者 前平委員長・高原副委員長・岩井委員・川口委員・市川委員・金井委員・
岡田委員・森本委員
（ワーキング委員）木村委員・福井委員・三上委員・花田委員・米田委員・
井上委員
（事務局）太田次長・松田課長補佐

開会挨拶（前平委員長）

皆さん、明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。いよいよ最後の会議となりました。皆さんのご協力とご努力でいい計画ができたと思っています。この計画を、木津川市の生涯学習を発展させるための礎としたいと思います。答申が終わるまで、気を抜かず最後までよろしくお願いいたします。

議事1 パブリックコメントの対応について

- ・事務局から、パブリックコメントにより寄せられた意見とその対応案について提案を行った。また、対応案については、1月10日開催の社会教育委員会の推進計画検討部会と社会教育委員会で検討を行ったことを報告した。

委員長 質問1つずつについて検討していきましょうか。まず1つ目の質問ですが、学校教育についてはすみ分けを行い、教育振興基本計画で詳しく書かれているのでこちらの計画には触れていないという整理です。連携しながらお互いのいい所を伸ばしていこうということだと思います。他の委員さんからは何かありますか。

委 員 委員長にお伺いしたいのですが、生涯学習に学校教育は含まれているという整理でいいですね。

委員長 以前は生涯学習の中で学校教育を否定するような時代もありましたが、現在は学校教育も含むというのが生涯学習の考え方になっています。他の委員さんから特になければ、1点目の回答はこれでよろしいですか。

各委員 異議なし。

委員長 2点目の質問です。老後の自分たちのためだけではなく貢献が必要というのと、シニア力引き出しのための取り組みが弱いというご意見です。どちらも計画に含んでいて、積極的に推進していきますという回答です。自治会活動では共働き夫婦が多いとの意見ですが、若い世代の委員のご意見としては

いかがですか。

委 員 地域活動とはまた違いますが、子どもの登下校の見守りなど、保護者が仕事のためにできない状況の中、地域の方々にやっていただき、ありがたいと思っています。

委 員 今日欠席されいますが、ワーキング委員で、老人クラブで子どもたちに昔の遊びを教えているという話がありました。今の子どもはコマ回しも経験がない子が多くてなかなか回せないそうです。

委 員 子どもの遊びの形態が変わってきています。昔は学校では同学年で遊び、放課後は高学年が地域の低学年の面倒を見て異年齢で遊んでいました。しつけにおいても、悪さをすれば地域の大人が叱ったが、今それをする親が怒鳴り込んでくる。

委 員 おっしゃることはよくわかるんですが、シニアが叱らないといけない。親同士だと同じ保護者という立場でいろんな問題が出てくるんです。嫌われ役になりたいとは思わないが、地域の子と接する時は、そういう意識でやっています。

委 員 そういうことを親に植え付けていけないといけない。会議の場ではそうだと言えても、親の反発もあり実際に叱るのは難しい。

委 員 放課後子どもプランの事業では、保護者も入ってのミーティングを毎月しています。そういう場で話すことはとても大切。親を育てることが重要であり、課題でもある。

委員長 自分の子どもも叱れない親がいます。大学生でも叱られた経験のない子がいるんです。その子は経験がないので、叱られるとどうしていいかわからなくなります。叱ったり叱られたりする経験はとても重要なのです。同じ年齢で1つずつ上に上がっていく社会は学校以外のどこにもありません。もちろんいい面もあるんですが、これがいびつな関係を作っている原因になっていると思っています。これを地域社会や生涯学習で何とかしていかないといけないと思うんです。

委 員 昨日、別の会議があり、たまたまシニア世代の社会参加について議論がありました。活動しているのは65歳以上で90歳近い人までが中心で、5年後や10年後はどうなるんだろうという不安があります。若い方の参加を促進するため試行錯誤しながらやってきましたが、解決策が見つからないのが実態なんです。

委員長 地域の中で人を見たら、誰だかわかった時代がありましたが、今は地域の人でも知らない人が多くなっています。若い人は自分が必要な情報はネットやいろんな媒体で調べます。そのあたりの工夫が必要でしょうか。

委 員 ソフトボールでも若い人が少ないんです。若い人のチームができて、い

ろんなイベントの手伝いや審判などを嫌がり、すぐにやめていくんです。地域の清掃活動でも参加できない家は罰金を払うということにしたら、お金を払って家にいる人がいるんです。お金を払ってでも参加はしたくないということなんです。

委員長 何でもお金でできる時代になったというのが原因の1つでしょうか。これは、生涯学習としての課題でもあり、現代社会の課題でもありますね。

委 員 アンケート調査では7割の人が機会があればボランティアに参加したいと答えていました。今の話とのギャップは何なのでしょう。

委 員 社協のボランティアはすぐに集まるんです。ところが、イベントなどのお手伝いとなるとなかなか集まらないのが実態なんです。

委員長 日本人は元来、人を助けるという意識が強いはずなんです。これまでとはまた違う視点で考えていかないといけないということでしょうか。いろいろとご意見をいただきましたが、この回答はこれでよろしいですか。

各委員 異議なし。

委員長 3点目と4点目の質問は情報がほしいというものです。先ほどのボランティアに人が集まらないという話の一方では、質問のように情報がほしいと思ってる方もいます。回答はこれでいいですか。全体としては、それぞれの意見には生涯学習の問題や地域の課題なども含まれていますが、生涯学習の視点での回答できればいいと思っています。社会教育委員会で検討いただいたということですし、そういう視点での回答になっていると思います。4点の回答はこれでいいか。

各委員 異議なし。

議事2 答申案について

- ・事務局から答申案について説明を行った。また、本会議終了後に教育長への答申を行うことを報告した。

委員長 事務局から提案がありました答申案について、これでよろしいですか。審議内容をまとめてもらっていますし、「ローカルな知」という言葉もも入れてもらってますね。

委 員 ローカルはどういう意味ですか。

委員長 辞書でひくと局所的な地ということになります。グローバルに対するのもローカルですし、それぞれの人がローカルな知という言葉から連想する木津川市らしい生涯学習を推進していただければと思っています。学校教育では評価されなくても、生きていくための知恵などを掘り起こしていくこともローカルな知だと思います。生涯学習は学校教育と違って評価をする者がいないということなんです。生涯学習には、すべての人が同じように理解するこ

とだけではなく、ある人は「これは何だろう」と思うようなことも必要なんです。それが生涯学習なんです。答申案はこれでよろしいですか。

各委員 異議なし。

議事3 その他について

委員長 本日予定していた議事は終了しましたが、最終の委員会ですので、これまで計画策定に関わっていただいた感想やご意見、ご批判でも結構ですので、ワーキング委員さんも含め、皆さんから一言ずついただきたいと思います。

委員 策定作業を通じて、自分も生涯学習に関わってきたという実感が持てたことが何よりも嬉しく思いました。最近孫の世話をすることがありますが、小さな子どもがパソコンを使って遊ぶ時代です。便利かもしれませんが、これを放置すれば怖いという思いを持っています。

委員 生涯学習というのは馴染みのない言葉でした。各団体の方々とこの場で議論させていただき、日頃の活動などもお聞きし、自分にとっての貴重な生涯学習となりました。

委員 ワーキング委員会でかなりの課題整理ができたと思っています。計画を毎年実践していく中で課題をどのように取り入れていくのか考えないといけないと感じています。

委員 昨年の4月からメンバーに入れていただきました。教育振興基本計画も来週に最終の策定委員会を開催することになっています。皆さんのご労苦を教育行政の推進につなげていきたいと考えています。

委員 生涯学習はシニア世代のものだと思って参加しました。この会議で生まれてから死ぬまでが生涯学習だということを知りました。市民がよりよい生涯学習に取り組んでいけるようにしてもらえればと思います。

委員 最初参加した時は、話が難しく、自分には無理だと思いました。その後、少しずつ見えてきて、他の委員さんのお話を参考に、今後の活動にもつなげていきたいと思っています。

委員 生涯学習を通して市民の方が笑顔になったり幸せになっていただければと思います。以前はボランティアに意識はあまりありませんでしたが、最近ボランティアを始めました。始めてみると意識も変わり、楽しいこともあるということがよくわかりました。

ワーキング フィールド調査では地域性や意識の違いがあることを感じました。ボランティアは自分の意識を変えることで、楽しいこともあるということがわかると思います。

ワーキング 聞き取り調査で、活動しているのは圧倒的に女性が多く、男性が少ないことに気づきました。男性参加促進のためのアピールが必要と感じました。

ワーキング 70 歳を超えた方が高齢者のためのボランティア活動をしているのが実態です。ボランティアをしてあげているではなく、させてもらっているという意識を持たないと続かないと思います。

ワーキング 民間企業に勤めた後、民間人校長をしました。その学校は P T A も学校主導でないと動かない状態でした。地域も巻き込んでもちつき大会を企画したところ、児童 200 人に対し 500 人の人が集まってくれました。異動後はその事業はなくなりました。先生が休みの日に出るのがいやだからという理由だそうです。何事も継続することが大切だと痛感しました。

ワーキング 昨年から社会教育委員となったので、調査にも参加していないし、ワーキング委員として計画を一から作るのかと思っていたら、ある程度のものが出来上がっていました。他の市町では立派な計画があっても実際には動いていないところが多いようです。これをいかに進めていくのかが課題だと思っています。

ワーキング 公民館サークルに携わっていますが、若い人が少ないのは今に始まったことではなく、30 年前も同じでした。いい計画ができたので、どう市民に浸透させていくのかが課題だと思っています。

委員長 これまで 6 回の会議を重ねてきました。他の市でも策定委員会に何度か関わりましたが、今回が一番充実したものでした。実際にフィールドに飛び込み、様々な活動をされている方の率直なご意見を引き出してもらったという重みを感じます。シンポジウムも 1 回限りという指摘があるかもしれませんが、計画づくりの出発点となりました。計画策定は生み出すこと、生まれることです。これを育てていくのは行政であり市民です。生涯学習自体も時代とともに変わってきています。昔はボランティアという言葉はなくても当たり前前に助け合いをしていました。生涯学習に答えはありません。一人一人違う生涯学習であっていいものなんです。委員の皆さんにはこれまでにいろいろご協力をいただき、ありがとうございます。最終の委員会のまとめとさせていただきます。

閉会挨拶（高原副委員長）

これまで熱い議論を重ねてきて、いい計画ができたと思っています。計画の策定で終わりにならないよう、この計画を着実に、1 年 1 年どう進めていくのかがこれからの課題だと思っています。前平先生にはいろいろとアドバイス、ご指導をいただきありがとうございます。以上で第 6 回、最終の策定委員会を終了します。

答 申

委員会終了後、策定委員会前平委員長から森永教育長に答申が行われた。



▲会議風景



▲教育長への答申